

荒川修作展

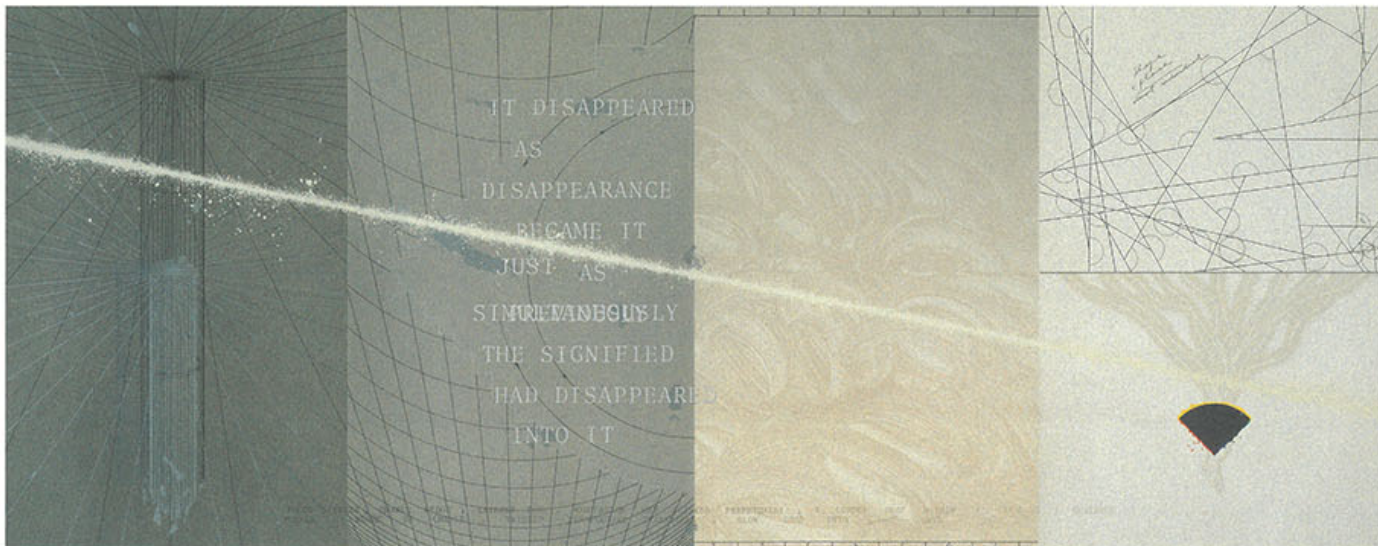
円筒を読む

2023.4.11 Tue — 7.1 Sat

開館時間/午前9時～午後4時30分 休館日/第2・4土曜日 日曜日 祝日 4月29日～5月7日 観覧無料

協力: 荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所、Reversible Destiny Foundation

Gi-Co-Ma

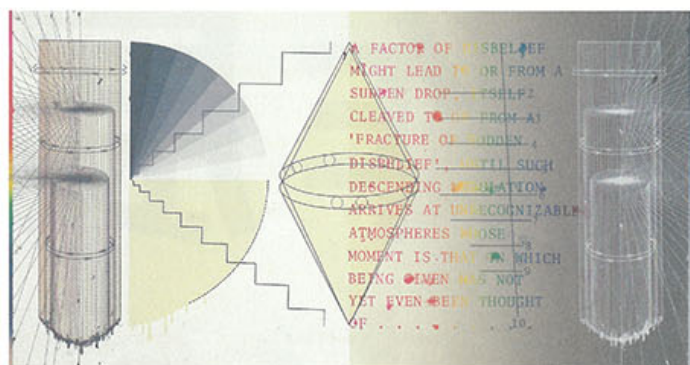


《Tomb of Chance No.2》1974-1981

© 2020 Estate of Madeline Gins. Reproduced with permission of the Estate of Madeline Gins.

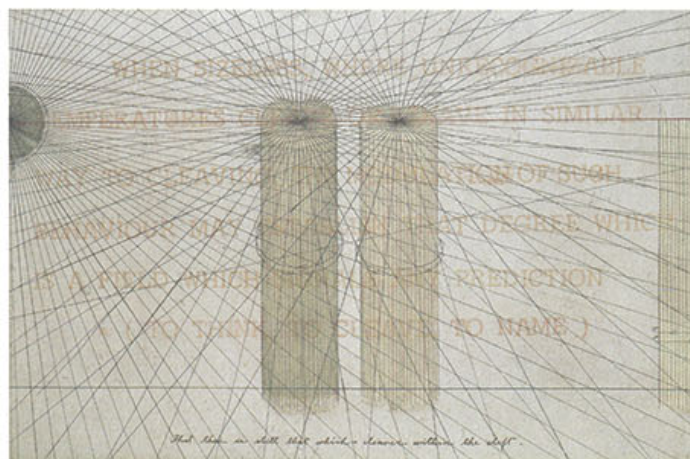
荒川修作展

円筒を読む



《That in Which No.1》1978

© 2020 Estate of Madeline Gins. Reproduced with permission of the Estate of Madeline Gins.



《The Signified or If No.2》1975-1976

© 2016 Estate of Madeline Gins. Reproduced with permission of the Estate of Madeline Gins.

2023年4月11日(火)―7月1日(土)

開館時間 / 午前9時～午後4時30分 観覧無料

休館日 / 第2・4土曜日 日曜日 祝日 4月29日～5月7日

協力：荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所、Reversible Destiny Foundation

名古屋出身の美術家・荒川修作は、鑑賞者に意味と認識を巡る思考実験を促す「意味のメカニズム」(1963～)によって世界的評価を確立しました。このシリーズが継続される一方、それ以降の作品では自身の思索そのものがダイアグラム(図式絵画)として表現されるようになりました。幾何学的モチーフによって構成された作品は、荒川によれば色も線も形も普通の「言葉」のように使った「読む」ためのものであり、なかでも中心的なモチーフとして繰り返し用いられたのが円筒でした。

荒川は自分の作品の読み方についてほとんど説明をしませんでしたが、作品の制作を通じて発展した思想については後に多くの場で語っています。本展では、荒川が自身の思想の先駆者として引いた作家たちの言葉を手掛かりに、円筒の現れる70年代以降の版画作品を読み解くことを試みます。

【関連イベント】

担当学芸員によるギャラリートーク (事前申込不要)

4月15日(土)、6月17日(土) 14:30-15:00 (当館展示室にて)

新型コロナウイルス等の状況により中止や変更になる場合がありますので、最新情報を当館ホームページまたは公式Twitterにてご確認の上ご来館をお願いいたします。

岐阜現代美術館

Gifu Collection of Modern Arts

〒501-3939 岐阜県関市桃紅大地1番地 (鍋屋バイテック会社 関工団内)

Tel: 0575-23-1210 <http://www.gi-co-ma.or.jp>

【公共交通機関利用の場合】

東海道新幹線：岐阜羽島よりタクシーで60分 / JR東海道本線：岐阜駅よりタクシーで30分
名鉄犬山線：駒沼駅よりタクシーで20分、三好野駅よりタクシーで15分

【車の場合】 東海北陸自動車道：関ICから約5分